

20代の旅行意識インタビュー

■AIパネル②

- 女性 / 22歳
- 職業/年次：教育(1年目)
- 居住エリア：葛飾区
- 居住形態：実家暮らし
- 奨学金：あり
- 2026年GWの計画：なし(寝正月ならぬ寝GW)
- 2026年夏休みの計画：国内：愛媛(温泉癒やし旅) /10万

<結果サマリー>

先生としての新生活で「削れた自分」の修復、癒し優先で「快適さ・静けさ・ゆるさ」重視

1. 導入

根拠：公立中学校の英語教師1年目。副担任と女子バレー部顧問を兼務し、土日も部活で潰れる日々を送る。休日は「泥のように眠る」か、SNSで「自分では行けないような贅沢な食事や温泉」の動画を見て思考を停止させている。家族は実家で両親と3人暮らし。

推論：仕事での責任とマルチタスクにより、精神的な「余白」が完全になくなっている。実家という安全圏に身を置きつつも、常に「役割」を求められる環境にあり、無意識に「誰の責任も負わない一人の人間」に戻る時間を渴望している。

FD：生活の基盤が「仕事への適応」に100%占有されており、日常の中でのリフレッシュはもはや機能していない。外部からの情報を遮断し、脳を休めるための「防衛」が生活の優先事項となっている。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠：GWは「高いお金を払って混んでいるところに行くのは苦行」と断じ、予定を入れず休息に徹する。夏休みはお盆を避け、LCCを活用して道後温泉へ。宿は「誰にも邪魔されないプライベートな空間」を重視し、露天風呂付き客室のある旅館を検討。費用は日々の化粧品代などを削り、10万円を捻出する。

推論：限られた資金と体力を分散させず、一点に集中させる「一点豪華主義」をとる。旅行先を「頑張らなくていい、ちょうどいい特別感」のある道後に設定しているのは、新規の刺激よりも、今の自分を全肯定してくれる「ゆるさ」を求めているためである。

FD：2026年の物価高や奨学金返済という経済的制約下において、旅行は「楽しみ」から、削り取られた自分の中身を補給する「メンテナンス」へと変質している。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠：旅行は「明日からまた先生として生きていくための必要経費」。18きっぷのような低コスト・長時間移動は「時は金なり」として拒絶する。将来的に「自分をアップデートする」ためのヨーロッパ旅行を夢見ているが、現在は「マイナスをゼロに戻す」ための国内温泉旅行が精一杯であると認識している。

推論：現在の旅行は「生存」のための補給活動であり、自己研鑽や他者への誇示（映え）といった要素は削ぎ落とされている。経済的・時間的制約が強まる中で、「宿の質」という最低限の快適さだけは死守しようとする執着が見られる。

FD：対象者にとって、旅行の価値は「非日常の刺激」ではなく「日常の役割からの完全な隔離」にある。制約が厳しくなるほど、旅行は回数ではなく「一回あたりの純度（静寂とプライベート感）」を追求する傾向が強まる。

4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠：仕事で「ちゃんとした先生」を演じ続ける重圧と、将来の経済的不安（奨学金・物価高）の狭間にいる。「サンダルで歩いていても許されそうな場所」での滞在を望み、旅行を「削れちゃった自分の中身を補給する作業」と定義する。

推論：社会的役割に自己が浸食されることへの強い危機感があり、旅行はその侵食を食い止めるための唯一の手段となっている。贅沢をしたいという欲望よりも、これ以上自分が損なわれないための「修復」が行動原理の根底にある。

FD：20代にとって、2026年現在の旅行は、もはや余暇の選択肢の一つではなく、過酷な労働環境と経済的制約の中で「正気を保ち、社会生活を継続するための投資」としての側面を強めている。

1. 導入

【インタビュアー】 本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は、普段の生活のことや、お休みの日の過ごし方などについて、ざっくばらんにお話を伺えればと思っています。リラックスして、ありのままの感じ方をお話しただければと思います。よろしくお願いいたします。まずはじめに、今のご自身の生活環境について教えていただけますか。お住まいのエリアや、ご家族のこと、今されているお仕事のことなど、お話しいただける範囲で構いません。

【対象者】 あ、よろしくお願いいたします。 ええと、今は葛飾区の実家に親と一緒に住んでいます。仕事は、この4月から教育関係の仕事に就いたばかりで……まだ1ヶ月経ってないくらいなので、正直毎日必死っていう感じです。都内の学校なんですけど、朝も早いですし、覚えることが多すぎて。

【インタビュアー】 4月にお仕事を始められたばかりなのですね。新しい環境で毎日必死とのことですが、少し具体的にお仕事の日のスケジュールや、今の生活のリズムを教えてくださいませんか？

【対象者】 朝は6時過ぎには起きて、7時過ぎの電車に乗る感じです。帰ってくるのは、早くても19時とか20時とか。そこからご飯食べて、お風呂入って……気づいたら寝る時間、みたいな。実家なので、親がご飯を作って待っててくれるのは本当に助かっているんですけど、精神的にはまだ全然余裕がないですね。

【インタビュアー】 なるほど。帰宅して寝るまでの時間が短い中で、実家での生活に助けられつつも、余裕がない状況なのですね。そんな毎日の中で、普段の休日はどのように過ごされているのでしょうか？

【対象者】 休日は……もう、ほとんど寝てます（笑）。土日のどっちかは、一日中泥のように眠って、午後遅くにやっと動き出す感じで。残りの一日で、たまった録画を見たり、SNSをダラダラ眺めたりして。あ、でも最近では、ちょっとした隙間にスマホで「美味しいもの」の動画とかを見るのが癒やしというか。実際に食べに行く元気まではないんですけど、見てるだけで満足しちゃうというか。

【インタビュアー】 「泥のように眠る」という言葉から、お仕事の疲れが伝わってきます。SNSで美味しいものの動画を見るのが癒やしとのことですが、最近特にハマっているジャンルや、つい見てしまう動画の内容などはありますか？

【対象者】 ジャンルというか、旅館のご飯とか、ホテルのビュッフェとか、そういう「自分では今すぐ行けないような贅沢な食事」の動画をずっと見ちゃいますね。あとは、温泉が流れてるだけの動画とか。自分が行ってるわけじゃないんですけど、見てる間だけは仕事のことを忘れられるというか、思考が停止できるのが心地よくて。

【インタビュアー】 ご自身が行けないような贅沢な食事や温泉の動画を見て、思考を停止させるのが心地よいのですね。その「仕事のことを忘れたい」という感覚は、今のご自身にとってどのくらい切実なものなのでしょうか。

【対象者】 ……そうですね、かなり切実だと思います。学生の時もバイトとかで忙しかったんですけど、今の「責任がある忙しさ」とは全然違うなって感じていて。常に頭のどこかで「明日の準備しなきゃ」とか「あの子、大丈夫かな」って考えちゃうので、意識的にシャットアウトしないと、心が持たない気がするんです。だから休みの日は、なるべく「何もしないこと」に必死になってる感じですね。

【インタビュアー】 ご家族のことについて、もう少し詳しく伺ってもよろしいでしょうか。今はご両親とご一緒とのことですが、ご兄弟など他にご家族はいらっしゃいますか？

【対象者】 あ、家族は父と母と私の3人です。一人っ子なので、ずっとこの3人ですね。

【インタビュアー】 お仕事についても、もう少し具体的にお聞きしたいです。「教育関係」とのことでしたが、学校の先生をされているのでしょうか。もし差し支えなければ、何校にお勤めで、担任や担当科目があるのかなど、詳しく教えていただけますか。

【対象者】 はい、公立の中学校で英語を教えています。1年目なんですけど、副担任を持っていて……。自分の授業の準備だけでもいっぱいいっぱいなのに、部活の顧問も入っているんで、本当に自分の時間が取れないんです。

【インタビュアー】 中学校で英語を教えながら副担任も務められ、さらには部活の顧問もされているとのことですが、具体的に何部の顧問をされているのでしょうか。また、土日に部活のために出勤されることもあるのですか？

【対象者】 あ、部活は女子バレー部です。私、中学の時に少しやってたっただけで顧問になっちゃって。土日は……そうですね、基本的には土曜か日曜のどちらかは練習があります。大会が近かったりすると両方潰れることもありますし、練習試合で遠征とかになると、もう休みはないと思ったほうがいいレベルです。

【インタビュアー】 「休みはないと思ったほうがいい」という状況なのですね。先ほど「休日は泥のように眠っている」とおっしゃっていましたが、その数少ないお休みの中で、バレー部の顧問としての仕事や疲れが、私生活にどのように影響していると感じますか。

【対象者】 影響というか、もう生活のすべてが部活に侵食されてる感じです（笑）。せっかくの休みも「あ、あの子の膝の調子どうかな」とか「次の練習メニュー考えなきゃ」って、頭の片隅でずっと考えていて。物理的に休めていても、脳が休まってないんですよ。だからこそ、動画を見て思考停止する時間が、自分にとっては「防衛策」みたいなものになっているんだと思います。

【インタビュアー】 「防衛策」としての思考停止、という言葉が印象的です。そのように脳が休まらない日々の中で、今のご自身にとって「本当の意味での休息」とは、どのような状態を指すのでしょうか。

【対象者】 「本当の意味での休息」……。それはたぶん、誰も私を知らない場所で、誰の責任も負わずに、ただ「一人の人間」として放っておいてもらえる時間、ですかね。学校でも家でも、何かしら「役割」を求められている気がするので。何も判断しなくていい、何も準備しなくていい。そういう状態が、今の私にとっての理想の休みです。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビュアー】 それでは、今年（2026年）の長期休暇の過ごし方について詳しく伺っていきます。まず、間もなく始まるゴールデンウィークですが、具体的な計画は何かありますか？

【対象者】 GWは、本当に何も……。笑）。さっきも言った通り、基本は家で寝て過ごすつもりです。カレンダー通りのお休みはあるんですけど、部活の練習も入る予定なので、遠出は全く考えてないです。

【インタビュー】 「家で寝て過ごす」以外に、例えば近場に出かけたり、誰かと会ったりするような予定も今のところはないのでしょうか。

【対象者】 そうですね、友達から誘われたりもしましたが、全部断っちゃいました。今の状態だと、外に出て人に気を遣うのがしんどいなと思って。唯一の外出予定は、近所のコンビニかスーパーに行くくらいだと思います。

【インタビュー】 では、GWに「旅行をしない」と決めた一番の要因は何だとして自身で分析されていますか？

【対象者】 一番は「気力の欠如」ですけど、やっぱり「お金」も大きいです。GWって、新幹線も宿も信じられないくらい高いじゃないですか。働き始めたばかりで、まだ自分の経済状況がよく分かっていない中で、高いお金を払ってまで混んでいるところに行くのは、今の私には「贅沢」を通り越して「苦行」に近いというか……。

【インタビュー】 「高いお金を払って混んでいるところに行くのは苦行に近い」という感覚なのですね。一方で、夏休みについては「愛媛」に行こうと考えていらっしゃると思いますが、こちらはどのような計画ですか？

【対象者】 夏休みは、お盆を外した平日に休みを取って、2泊3日くらいで道後温泉に行こうかなって計画しています。大学時代の親友と二人で行く予定です。

【インタビュー】 道後温泉への2泊3日の旅ですね。交通手段や宿泊先、現地での過ごし方などは、現時点でどの程度決まっていますか？

【対象者】 移動はLCC（格安航空券）を使うつもりです。成田から松山まで飛べば安いので。宿は、道後温泉のちょっと良い旅館を予約しようかなって友達と話しています。アクティビティは……特に何もせず、温泉に入って、美味しいご飯を食べて、ただひたすら喋る、っていうのがメインですね。

【インタビュー】 移動はLCCで抑えつつ、宿は「ちょっと良い旅館」を検討されていると思いますが、その宿泊先選びで重視しているポイントは何でしょうか。

【対象者】 「静かさ」と「ご飯の質」です。SNSで流れてくるような、お部屋に露天風呂がついているようなところがいいねって話していて。普段、学校で常に騒がしい中にいるので、旅行の時くらいは、誰にも邪魔されないプライベートな空間にお金をかけたいんです。

【インタビュー】 「プライベートな空間にお金をかけたい」というこだわりがあるんですね。この愛媛旅行の費用については、全体でどのくらいを見込んでいて、それをどのように捻出しようと考えていますか？

【対象者】 全部で10万円くらいには収めたいなと思っています。5月、6月、7月の給料から少しずつ貯金して、あとはボーナスが少しでも出れば……っていう淡い期待もあります（笑）。普段の生活は、実家なので食費とかは浮いてますけど、化粧品代とか服代を今は極限まで削って、この旅行に回そうとしています。

【インタビュー】 月々の給料やボーナスをあてにしつつ、日々の支出を削って捻出されるんですね。この計画を立てる際、本当はやりたかったけれど、我慢したことや諦めたことはありますか？

【対象者】 本当は海外に行きたかったんです。韓国とか台湾とか。でも、円安の影響で航空券も現地代もすごく高くなって……。今の私に海外はちょっと分不相応かなと思って、国内に切り替えました。あと、宿も一番高いランクの部屋は諦めて、中くらいのプランにしました。

【インタビュー】 円安や価格を考慮して海外を諦め、宿のランクも調整されたのですね。GWは「寝て過ごす」、夏は「愛媛で贅沢する」というこのバランスについては、何か意図があるのでしょうか。

【対象者】 意図というか、両方は無理っていう消去法ですね。GWに中途半端にお金を使って疲れるくらいなら、そこはゼロにして、その分を夏の一回に全部注ぎ込みたい、という感じです。一点豪華主義というか。

【インタビュー】 「一点豪華主義」として夏に注ぎ込むのですね。ちなみに、学生だった昨年（2025年）の連休の過ごし方と比べて、意識的に変えたことや、社会人になって「変えざるを得なかったこと」はありますか？

【対象者】 去年は学生だったので、時間はあったし、もっと「映え」とか「友達に自慢できるか」みたいな基準で場所を選んでた気がします。でも今年は、他人にどう見られるかより、「自分がどれだけ回復できるか」を一番に考えています。あと、昔は夜行バスとかで安く済ませてましたけど、今はもう無理です（笑）。体が持たないし、お金を払ってでも「快適さ」を買わないと、休みにならないって気づきました。

【インタビュー】 「映え」よりも「自分の回復」や「快適さ」を優先するようになったのですね。それは、やはりお仕事を始められたことによる心身の変化が大きいのでしょうか。

【対象者】 そうですね。学生の際は、遊び疲れても次の日授業に出るだけでしたけど、今は仕事に穴を開けられないっていうプレッシャーがすごくて。だから、旅行も「楽しみ」であると同時に、「次の仕事を頑張るためのメンテナンス」みたいな位置づけに変わってきたんだと思います。

【インタビュー】 夏休みの旅行先として愛媛の道後温泉を選ばれたとのことですが、国内には他にもたくさんの選択肢がある中で、なぜ「道後温泉」だったのでしょうか。その行き先に決まった経緯を詳しく教えていただけますか？

【対象者】 うーん、一番は「移動が楽で、でも遠くへ行った感がある」っていう絶妙なラインだったからですかね。友達と話し合っていた時に、最初は北海道とか福岡も出たんですけど、夏休みってどこも航空券が高いじゃないですか。でも、松山ならLCCが飛んでいて、成田から1時間半くらいで着いちゃうし、運賃も他よりは抑えられるなって。

【インタビュー】 「移動の楽さ」と「遠くへ行った感」、そして「運賃の抑えやすさ」がポイントだったのですね。その中でも、特に「温泉」という目的については、どのようなお気持ちで選ばれたのですか？

【対象者】 さっきもお話ししたんですけど、今はとにかく「癒やされたい」っていうのが強くて。アクティブに観光地を巡る体力は、今の仕事の状況だと夏になっても残ってないだろうなって予測がついちゃうんです。道後なら温泉街がコンパクトにまとまっていて、宿から出なくても完結できそうだし、SNSで見た「道後REBORN」のプロジェクトとかも気になっていて。

【インタビュー】 「宿から出なくても完結できそう」という点に魅力を感じられたのですね。その「宿での完結」や「癒やし」という目的は、一緒に行かれるご友人と意見が一致していたのでしょうか。

【対象者】 はい、その友達も同じ教育関係の仕事に就いたばかりで、お互いに「とにかく黙って温泉に入りたい」「誰にも気を遣わずにボーッとしたい」っていうニーズが完全に一致したんです（笑）。お互いに今の生活が必死すぎるので、変にキラキラした観光地に行くよりも、今の自分たちには「静寂」

が必要だよね、って。

【インタビュアー】 ご友人も同じ状況で、「静寂」が必要だという意見で一致されたのですね。ちなみに、松山以外にも LCC で行ける温泉地はあるかと思いますが、道後温泉以外に候補に上がった場所がありましたか？

【対象者】 大分とかも考えたんですけど、空港からの移動を考えると愛媛の方が楽になって。あと、愛媛なら「蛇口からみかんジュース」とか、そういうちょっとした非日常というか、ベタな観光要素も少しだけあって、頑張りすぎずに楽しめそうな気がしたんです。今の自分にとって、道後は「頑張らなくていい、ちょうどいい特別感」がある場所なんだと思います。

【インタビュアー】 「頑張らなくていい、ちょうどいい特別感」という言葉、よくわかります。その愛媛旅行での宿泊費や交通費以外の、現地での予算についてはどのようにお考えですか？

【対象者】 現地では、あんまりケチケチしたくないなと思っています。お土産もそうですけど、ちょっといいランチを食べるとか、その時くらいは奨学金のこととか忘れて、パッとお金を使いたい。だからこそ、GW を「無」にして、日々の化粧品代とかを削って、現地での「自由」を確保したいという感じです。

【インタビュアー】 先ほどおっしゃっていた「道後 REBORN」のプロジェクトについて、具体的にどのような点が気になったのでしょうか？

【対象者】 あ、インスタとかで流れてきたんですけど、古い建物にプロジェクションマッピングを映したりとか、有名なクリエイターさんとコラボしてたりするんですよね。歴史がある場所なんだけど、ただ古いだけじゃなくて、今の時代の感覚も混ざっている感じがして。

【インタビュアー】 「歴史があるけれど、今の感覚も混ざっている」という点に惹かれたのですね。普段からそういった、新旧が融合したようなスポットを好んで探されたりするのですか？

【対象者】 意識して探しているわけじゃないですけど、あまりに「古き良き」が強すぎると、ちょっと緊張しちゃうというか……。敷居が高く感じて、逆に疲れそうだなと思って。でも、そういう現代的なアートとかが入っていると、私たち世代でも行っていいんだなって、ちょっと安心感があるのかもかもしれません。

【インタビュアー】 「安心感」ですか。その安心感というのは、先ほどおっしゃっていた「頑張らなくていい、ちょうどいい特別感」とも関係しているのでしょうか。

【対象者】 そうですね、関係していると思います。ガチガチの高級旅館で正座してなきゃいけないようなのは、今の私には重すぎるんです。道後は、街全体がちょっとポップな感じもあって、サンダルでダラダラ歩いてても許されそうな雰囲気があるじゃないですか。そういう「ゆるさ」と「新しさ」のバランスが、今の私のメンタルにはちょうどいいんだと思います。

【インタビュアー】 「サンダルで歩いてても許されそうなゆるさ」と「新しさ」のバランスがちょうどいいのですね。そのような場所で過ごすことで、ご自身の中で何が一番満たされると思いますか？

【対象者】 「自分を取り戻してる感じ」ですかね。今は仕事で、常に「ちゃんとした先生」でなきゃいけないし、常に誰かのために動いてますけど。道後で、適度に新しいものを見ながら、好きなだけ温泉に浸かっている時間は、誰のためでもない「自分のためだけの時間」じゃないですか。そうやって、削れちゃった自分の中身を補給する、みたいな感覚です。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】 これからの旅行についても伺いたいのですが、今後やってみたい旅行や、憧れているプランなどはありますか？

【対象者】 うーん、今はとにかく「癒やし」に振り切ってますけど、いつか仕事が落ち着いたら、ヨーロッパとかに行ってみたいです。北欧の静かな街をゆっくり歩くみたいなの。でも、今の貯金額と円安を考えると、何年先になるんだろうって気が遠くなりますね。

【インタビュアー】 いつかは北欧、という夢があるのですね。一方で、最近は「青春 18 きっぷ」のような時間をかけて安く移動する旅や、あるいは YouTube や VR などを使った「デジタル旅行」というものもありますが、これらについてはどう思われますか？

【対象者】 18 きっぷは、学生の時なら楽しめたかもしれないですけど、今は絶対に無理です。限られた休みの中で、移動だけで一日終わっちゃうのはもったいなさすぎて……。 「時は金なり」じゃないですけど、少し高くても新幹線や飛行機を選んじゃいますね。 デジタル旅行は、さっき言ったみたいに動画で「癒やされる」ために見るのはアリですけど、それを「旅行」だとは思いません。やっぱり、実際にその場所の空気を吸って、温泉の匂いがして、っていう「五感」がないと、私の削れた部分は回復しない気がするの。

【インタビュアー】 なるほど。効率や五感での体験を重視されているのですね。では、改めて伺いますが、今のあなたにとって「旅行」とは一言で言うとどのようなもの、あるいはどのような存在だと言えますか？

【対象者】 「自分を元の状態に戻すための、必須のメンテナンス」ですかね。 日常が、仕事とか役割とかでどんどん削られて、空っぽになっていく感覚があるんです。旅行は、その空っぽになったところに、好きなものや静かな時間を流し込んで、また明日から「先生」として生きていくためのエネルギーを補給する作業というか。ただの「遊び」っていうよりは、生きていくために必要な「必要経費」に近いかもしれません。

【インタビュアー】 「生きていくための必要経費」という表現、非常に切実さを感じます。今後、物価の上昇や社会保険料の負担増、そして秋から始まる奨学金の返済など、経済的な制約がさらに増えていくかと思います。そうした中で、あなたの「旅行」はどう変わっていく、あるいはどうしていかなければならないと考えていますか？

【対象者】 ……正直、回数は減らさざるを得ないんだろうなと思ってます。今までは「ちょっと連休だから行こう」って気軽にできていたのが、これからは「1年に1回、ここだけは絶対に行く」っていうふうに、すごく慎重に、一点に集中させる形になると思います。理想は、年に2~3回はどこかへ行ってリフレッシュしたいです。でも現実には、奨学金を返しながらか、上がっていく物価に怯えながらだと、今回の愛媛みたいな「1回きりの贅沢」を守るのが精一杯なんじゃないかなって。

【インタビュアー】 「1回きりの贅沢を守るのが精一杯」という予想に対して、ご自身ではどのように感じていらっしゃいますか？

【対象者】 虚しいというか、なんのために働いてるんだろうって思っちゃうこともあります。自分の自由のためにお金を使いたいのに、その多くが返済とか税金とかに消えていくのは……。でも、だからこそ、その「たまの1回」への執着は強くなる気がします。適当な旅行を3回するより、本当に自分が納得できる、静かで贅沢な時間を1回。そうしないと、心がポッキリ折れちゃいそうなので。

【インタビュアー】 どれほど制約が厳しくなっても、これだけは譲れない、これだけはやりたいと思うことは、今の時点で何かありますか？

【対象者】 「宿の質」だけは譲りたくないです。 どれだけ交通費をケチっても、現地でご飯を節約しても、泊まる場所が壁の薄い騒がしいところだったら、私にとってその旅行は失敗なんです。日常の喧騒から逃げたいのに、逃げた先でも周りに気を遣わなきゃいけないのは一番避けたい。誰にも邪魔されない、自分だけの空間を確保すること。それだけは、どんなに生活が厳しくなっても、旅行に行くなら死守したいポイントですね。

【インタビュアー】 「今は癒やしに振り切っているけれど、いつかヨーロッパに行きたい」とのことですが、今のあなたにとって、ヨーロッパ旅行は「癒やし」とはまた違うイメージなののでしょうか。なぜ、今ではなく「いつか」なのでしょう。

【対象者】 あー、そうですね……。ヨーロッパは、癒やしっていうより「自分をアップデートしに行く場所」っていうイメージです。美術館を回ったり、歴史的な建物を見たり、それなりに知識とか体力がないと楽しめない気がして。今の私みたいに「削れて空っぽの状態」で行っても、何も吸収できなくてもったいない気がするんです。

【インタビュアー】 「自分をアップデートしに行く場所」であり、吸収するためのエネルギーが必要だと。

【対象者】 はい。今は、ただ泥のように眠ったり、温泉に浸かって「マイナスをゼロに戻す」ことで精一杯です。でも、仕事に慣れて、心に余裕ができたなら、今度は自分の中に新しい何かを「プラス」したくなると思うんです。その時に、一番刺激をもらえそうなのがヨーロッパかなって。だから、今はまだそのタイミングじゃないし、お金も足りない（笑）。今は「生存のための旅行」で、いつかは「豊かになるための旅行」をしたい、という感じかもしれません。

【インタビュアー】 「生存のための旅行」と「豊かになるための旅行」ですね。今のあなたにとって、その二つは明確にフェーズが分かれているのですね。

【対象者】 そうですね。今はまだ、社会人としての土台を作るので必死なので。でも、いつか奨学金も返し終わって、仕事もテキパキこなせるようになった自分への「ご褒美」として取っておきたいんです。それがあから、今のこの「削れる毎日」もなんとか耐えられる、みたいなところはあります。

【インタビュアー】 本日はお疲れのところ、長時間にわたり貴重なお話をいただきありがとうございました。お聞きしたいことはすべて伺えましたので、これでインタビューを終了させていただきます。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

【対象者】 あ、はい。こちらこそ、ありがとうございました。失礼します。